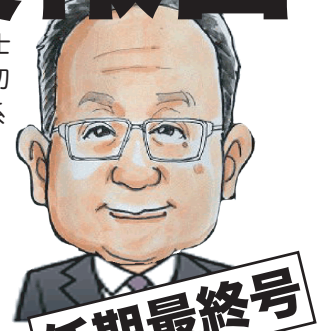
2015.3月　通算217号　地域配布版第36号(年4回発行)

高橋しんすけ 議員報告



無所属　高橋伸介：1953.4.25生れ、A型。佛教大学卒。京都信用金庫に10年勤務後、染色補正技能士として京都の伝統産業に従事。市民オンブズマンを経て1999年より市議会議員。後援会組織を持たず、一切合切を一人でこなす**完全ひとり選挙**の手法を貫き現在4期目。行財政改革系・納税者系・オンブズマン系の市議会議員。平成22年9月よりみんなの党。平成26年11月に党解散により無所属・改革市民に戻る。

twitterとfacebookは非常時用に開設しています。

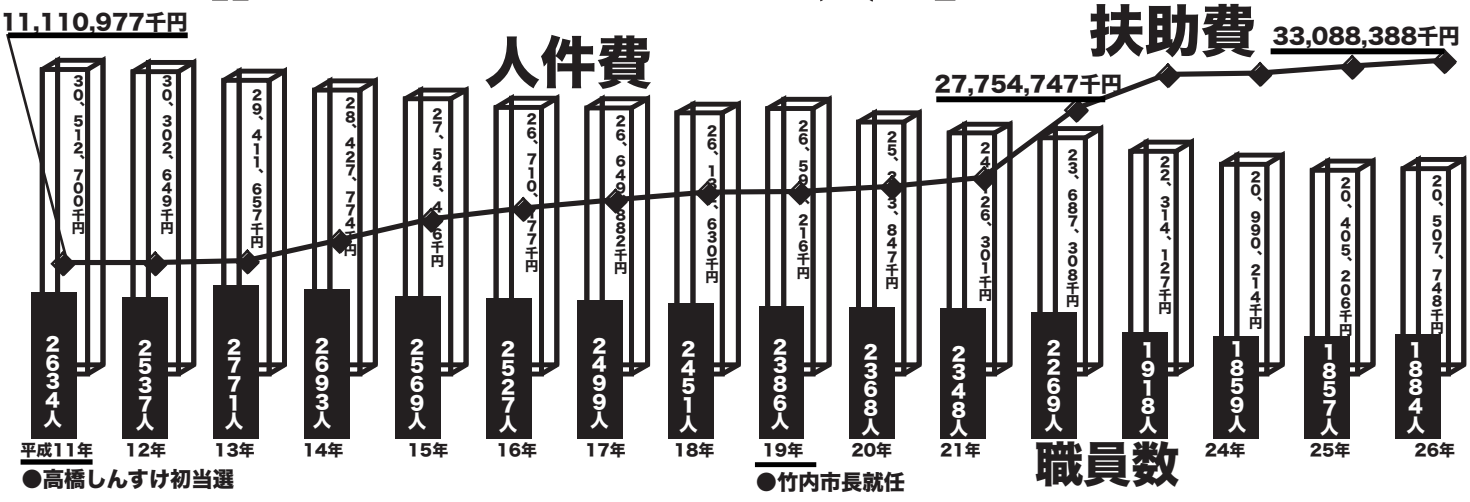
99年開設以来のデータを蓄積。日記も頻繁に更新中。

高橋しんすけ議員報告ホームページ

枚方市役所議会事務局〒573-8666 枚方市大垣内町2-1-20　tel 072-841-1221自宅〒573-1106 枚方市町楠葉(まちくずは)2-27-6

任期最終号

”嫌われても改革！”



さて、皆様からいただいた4期目の任期もあと一ヶ月となりました。任期最終号では、私が初当選させていただいた平成11年から現在の職員数、人件費、扶助費についてグラフを作ってみました。グラフを見ていただきますと、一般職の正規職員数は減ってきていますが、実はグラフに載っていない再任用職員、任期付き職員、非常勤職員などの多様化で業務をこなしています。正規職員を減らしても中核市業務をこなしているわけです。

人件費は年100億円のコストカットに成功！

グラフの人件費を見ていただくと、正規職員を退職者不補充という形で行い、給与費を削減したきた結果、私の初当選時、年間300億円を超えていた人件費は、現在、200億円程度で推移しています。簡単にいうと年100億円、10年で1000億円の縮減効果です。このベース（人件費の構造改革）を築いたのが当時の私たちと中司（なかつか）市長でした。とりわけ私は強く行財政改革と既得権改革を求めてきました。

そして、職員組合や組合員から名指しで抵抗されたのが私たちです。改革は常にストレスを伴い、またリスクも伴います。しかし、これをやらねば今の枚方市はありません。また、未来の枚方市もないでしょう。

今後も引き続き「嫌われても改革！」を進めます！

さて、これからです。グラフの扶助費をご覧ください。少子高齢化の流れの中で確実に伸び続けています。私の初当選時から3倍に達しています。今後、扶助費の精査を進めると共に一層の効率化と全ての事業の統廃合を進めていかねばなりません。同時に人件費の構造改革第2弾として、民間では当たり前ですが、年功序列の制度から、やる気のある方が報われる給与制度にしていくことも必要です。

改革に「ここら辺で止める」はありません。国が1000兆円を超える借金漬けの状態で、自治体においてもほっておくと悪化することは確実です。ここは「嫌われても改革！」を進めていく腹をくくったところです。

※なお、全質問および質問内容全文につきましては、高橋しんすけ議員報告ホームページ
www.kiku-sakura.net、または枚方市議会の会議録検索サイトをご参照ください。

姿勢を問う

市長の政治姿勢（1999～2010）
意識改革、行政改革（2003、その他）
分限免職の執行（2005）
市役所内の怠業者（2005、その他）
行政改革部の課題(2013)
総合文化施設と現市民会館(2012)

環境、健康

ディーゼルエンジン車（1999）
電磁波（2000）
学校園改修時のシックハウス（2003）
エコオフィス（2004）
市民病院のマンモグラフィ
（2003、2004）

財政危機！

市の財政状況（1999～2010）
行政直営でやる仕事とは（2006）
一時借入操作はやってないか？（2006）
財政問題について(2011)
老朽化している公共施設について(2013)

適正な税配分

生活保護の実態（2009）
議員駐車場は有料化に
中学校給食(2012)

透明化

情報公開（1999～2010）
枚方市HP、議会中継（2000）
口利き記録制度（2003）
市長の公務スケジュール（2001）
職員のネームプレート着用（2003）
政務調査費・領収書の公開対象文書
市民相談等への対応(2012)

その他

単独消防（2004）
公用車の車種・何故クラウン？
（2000、2005）
学校給食（2002、2005、その他）
たばこ税（2006）
無防備地域宣言（1999、2003、2004）
塩漬け土地（1999、2001）
浸水対策と下水道整備(2013)
中核市移行後の消防行政(2013)
美術館建設を前提とした市民からの寄附
(2013)
集中豪雨対策について(2012)

1999年からの主な議会質問項目一覧

ダイジェスト版！

人件費の適正化

職員給与・手当、給与条例（1999～2010）
公立中学校の授業時間を正常化50分（2001）
非常勤職員への報酬・手当（2001、2002、2003）
再任用制度（2000、2001、2002）
市長の退職金（2006）
議員の期末手当20%加算は違法（2002、2004、2005）
議員年金は廃止へ・市からの負担金がもったいない（2004）
職員の勤務時間を適正に８時間働いてほしい（2005）

職員組合

労働協約の適正化（2000、2001、2002）
職員会館内に組合拠点があるのは適正か？（2003、2004、2006）
職員団体との関係は正常か？（2001、その他）
公共建物（市役所別館北側出入り口）に組合掲示板は不適切（2003）
市民会館や大ホールに隣接する職員会館について(2012)
職員の不祥事について(2013)
多発する職員の不祥事(2013)

市が巻き込まれた談合事件

小堀前副市長の無罪判決について（2009）
中司前市長の退職金返還請求とその後の経過(2013)
総務部より報告のあった談合問題にかかる総括について(2013)

ひとこと

さて、議員となって4期目の任期最終号となりました。この十六年を通じて私の思いは一つです。個人の事情を優先するのではなく、改革方向の志を持った方と共に住民に取って安心安全で健全な自治体運営を実行することです。

とは言え、ピュアな「志」だけですと学生とあまり変わりません。この政治の世界で志だけでは通用しないことも事実です。みんなの党を代表をされていた渡辺善美さんの失敗に学ばなければなりません。

市町村トップセミナーの講師であった田崎史郎さんが、このように発言されていました。

「政治は政治家（国会議員）という人間の営みである。政治家の判断基準は次の3つである。「情」世話になったかなっていないか。「利」自分にとって損か得か。「理」正しいかそうでないか。この情・利・理で行動するのが政治家の行動原理であり、その配分は情と利が50%、理が50%である」と。

まあ、原理主義では政治家は務まらないと言うことです。政治関係の本を読むとこれに似たことは多くの本で記載されています。しかし人間の心情として、多くの無所属（市民派）議員は選挙の不安に駆られ、また支持を拡大しようとして従来型の政治活動に走ります。

私自身も従来型の活動も必要と考え、市民に繋がり、従来型政治にとって必要な「名簿」の作成に着手しようとしたことがあります。集まりに顔を出すと、まあ様々な相談が出てきます。本来、役所の窓口で対応できることも「議員に相談」となります。もっとも相談される市民に悪気はありません。

その中には「改革」とは逆ベクトルのお願いもあります。私は段々と行政にストレートな物言いが出来にくくなるのを感じました。・・・で、しばらくして初心に戻りました。私の初心とは、4年の任期で終える覚悟です。選挙には「それでも良かったら再任して下さい」という姿勢です。新しい選挙レス選挙の覚悟です。

私たち改革市民派の多くは、無党派中心の納税系市民から付託されています。この方達は厳しい仕事や子育てや家庭問題で手一杯の方々です。そのような中で文句を言わず納税されている方々です。物言えぬその方々の代弁者なのです。

議員自身の所得や子育て、家庭問題で選挙を考えると本末転倒となります。よって、議員になって十六年たっても名簿はありません。無名の方々の代弁ですので。・・・これが初心です。

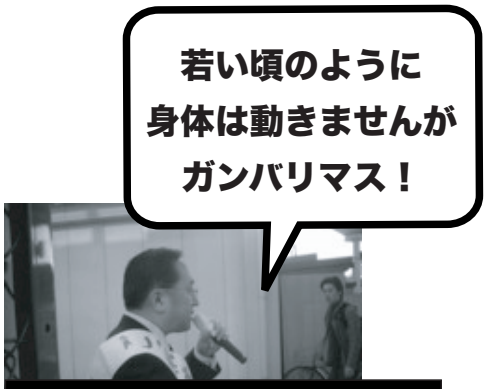
「情・利・理」に話を戻しましょう。地方議員の私は、改革を進めるにあたって「利」と、「利」が絡む「情」の部分を切り取って、単なる「情」と「理」の政治を目指しています。

その配分は意外に思われるかも知れませんが、情70%、理30%ぐらいです。

ところが1期目の私は、その配分が逆転していました。結果はうまくいきません。2期目ぐらいから修正をかけ3期目で現在の配分にしたところ、議員どうしの関係も改革系の案件も、折衷案的ではありましたが前に進めることが出来るようになりました。

二十年前、多くの市民派議員が誕生しましたが、成果なくお辞めになった方が多いのは、やはりご自身の原理主義が自らの壁になったのではないかと感じます。

政治は人間の営みである以上、常に流動的となります。「志」の原点を中心に据えながらも臨機応変に処していかねばなりません。日々、ミリ単位の調整に励みながら改革に向けて頑張ります。



くずは駅前報告～ライブ通信
（2015年2月現在653回目のご報告）
くずは駅周辺4ヶ所で朝6:30～8:30
（土日祝雨天そして用事のある日は休みです）

議員のホームページや議員報告（ペーパー版）は政務調査の目的により運用しております。市政に関するご意見、ご提言、ご感想をお寄せ下さい。尚、お名前やご住所は他の目的を持って使用することはありません。